

2016年度冬版L2-Tech水準表の主な変更点

平成28年度L2-Techリスト更新拡充・認証委託業務

2016年度冬版L2-Tech水準表の主な変更点について

○はじめに

エネルギー消費量を抜本的に削減する大胆な省エネを進めるため、平成26年3月「L2-Tech JAPANイニシアティブ」を発表。先導的(Leading)な低炭素技術(Low-carbon Technology)＝L2-Techをリスト化し、情報発信するとともに、開発・普及を強力に推進しています。

○L2-Techの現状

L2-Techは、エネルギー消費量削減・CO2排出削減のための先導的な要素技術または、それが適用された設備・機器等のうち、エネルギー起源CO2の排出削減に最大の効果をもたらすものであって、以下の構造で具体化されています。

- L2-Techリスト:設備・機器の分類を示すリスト(年に1回更新・拡充)
- L2-Tech水準表:設備・機器の最高水準(エネルギー消費効率等)を示す水準表(夏と冬の年に2回更新)
(平成28年1月 2015年度冬版L2-Tech水準表、平成28年8月 2016年夏版L2-Tech水準表を公表)
- L2-Tech認証製品一覧:CO2削減効果(エネルギー消費効率等)が最高の製品を示す認証製品の一覧(夏と冬の年に2回公表)
(平成28年10月版において、64種類の製品、個別の製品数830を掲載)

○2016年度冬版L2-Tech水準表の主な変更点について

L2-Tech水準表は、夏と冬の年に2回、設備・機器の最高水準(エネルギー消費効率等)の数値等を更新しています。2016年度冬版については、主にメーカーの皆様から個別に提案をいただくことによって、2016年度夏版の水準表を基に設備・機器等の拡充を行いました。

- エネルギー消費効率等の向上があった設備・機器については、水準の更新を行いました
- 業界団体等の指摘事項に変更等の対応をしました(記載内容について修正・改善等が必要な事項)

○平成29年度以降のL2-Tech水準表の方向性について

CO2の大幅な削減に資する設備・機器の情報発信を目的とした「L2-Tech水準表」と、省エネ機器の普及を目的とした「トップランナー制度」の対象設備・機器等について、業界団体等からの「混乱のないように整合を図っていくべき」との意見を踏まえ、以下のような方向性を検討しました。

- 今後に向けて検討を進めつつ、2016年度冬版では暫定措置を取って対応する
- 平成29年度以降については、移行期間を経て、トップランナー制度との整合を図っていく

平成29年度以降のL2-Tech水準表の方向性について 今後に向けて検討を進めつつ、2016年度冬版では暫定措置を取って対応する

トップランナー制度との重複設備・機器等に関する対応

背景

- L2-Tech水準表とトップランナー制度との対象設備・機器等に関する重複について、業界団体等からの「混乱の無いように整合を図っていくべき」との意見を踏まえ、今後に向けた検討を行った

今後の方向性

- トップランナー制度で対象としている設備・機器等については、
- CO2削減効果という観点での評価方法の設定を検討する
- 省エネ製品買換ナビゲーションシステム「しんきゅうさん」の活用(1位～5位を示すこと等)を検討する。

※今後拡充した設備・機器等についても同様

数年の内に上記の方向性へ移行するが、現時点では暫定措置を取る

2016年度冬版L2-Tech水準表の作成における暫定措置

